



氷川神社一の鳥居に到着。

この先を進むと氷川神社がある。かつてはこの道を中山道として使っていたが、寛永5年(1628年)、現在の中山道がつくられた。



ケヤキ並木の先、さいたま新都心駅の手前に小さなほこらがある。

ここには「火の玉不動尊」と「お女郎地蔵」が鎮座する。伝説によると、昔、大宮宿に美人姉妹がいた。姉には結婚の約束までした恋人がいたが、大盗賊がその関係に割って入り、思い詰めた姉は橋の上から身を投げてしまった。それ以来、あたりにひとだまが飛び始めたため、あわれに思った人が、お女郎地蔵を建てたと言われている。



ここは、「与野駅前大ケヤキ跡」。

樹齢500年を超えて立っていたが、倒木の危険があり、平成22年に伐採された。

このケヤキを使って作ったオブジェが、与野駅コンコースに設置されている。



スタートは「北浦和駅東口交差点」。朝は、通勤や通学の人たちで混み合っている。

さいたまの道



与野駅を過ぎたあたりは、かつて小高い野原で、日光や秩父など諸国の山々が見渡せたため、「六国見」と呼ばれていた。現在は、新都心のビル群が立ち並び、当時の面影はない。

北浦和駅東口交差点から約5分。歩道橋の下に「廓信寺」の石碑と「サツマイモの女王 紅赤の発祥地」の看板がある。廓信寺には、鎌倉時代に作られた木造阿彌陀如来坐像があり、県の指定文化財になっている(行事時のみ公開)。



「紅赤」は、明治時代に山田いち氏が発見したサツマイモの新種であり、品種改良のさきがけとなった。平成22年には、紅赤を使ったいも焼酎も作られている。

日本橋と京都を結び、行き交う人で賑わっていた旧中山道。今回は、北浦和から大宮方面に向かって歩く。